



写真1 収蔵室の温度湿度管理

標本を高湿度によるカビ等から守るため、温度と相対湿度を測定記録し、異常がないかを確認。

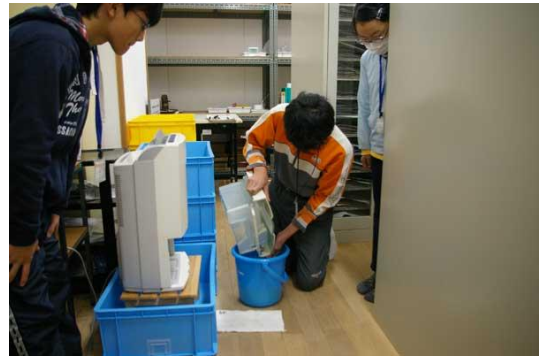


写真2 収蔵室の除湿器の排水

収蔵室内の相対湿度を低く保つために、家庭用除湿器を配置して、除湿・排水を行う。



写真3 ツルグレン装置用土壌の管理

2階常設展示で肉眼では観察しにくい土壌生物展示用に、落葉落枝を加えて、土壌生物が増えるように管理をする。



写真4 自動撮影装置の管理

自動撮影装置（トレイルカメラ）を使って、シカ、タヌキ、テン、キツネなど科学館周辺の野生生物の生息調査を行う。



写真5 特別展の展示グラフィック片付け

特別展で使用した展示グラフィックを、閉幕後に片付ける作業。役割分担しバディでチームワーク作業する。



写真6 コケ観察・撮影・採集

科学館周辺の蘚苔類（コケの仲間）を探して、調べて、図鑑や顕微鏡で同定するために必要最小限を採集する。

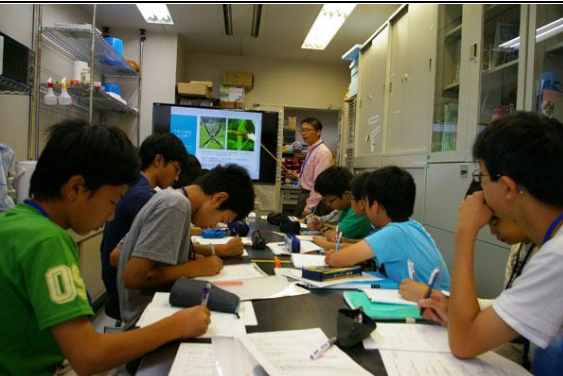


写真7 クモ学の講義

科学館周辺のクモ調査をするために、クモの分類学的・生態学的・形態学的な基本的知識を得るための研究室での講義。



写真8 科学館周辺のクモ野外観察・採集

採集道具・器具の使い方と仕組みを理解して、生態学的な観点から野外でクモの巣撮影やクモ採集をバディで協力し行う。

自然系ジュニア学芸員の実習活動（2）



写真9 野外でのきのこ撮影

科学館周辺の雑木林で、きのこの発生調査・撮影。沢山の目があると見逃しがちなきのこ種も発見できる。



写真10 きのこ同定

科学館周辺の雑木林で採集したきのこを、研究室で図鑑を用いてグループミーティングしながら同定を行っていく。



写真11 きのこ凍結乾燥標本作成

採集したきのこのうち、展示に向いている美しいものは、一度冷凍してから凍結乾燥機にかけて、展示物に仕上げる。



写真12 きのこ温風乾燥標本作成

学術的にきのこ標本を残す場合は、標本ラベルを正確に書いて、デヒドレーターを使って温風乾燥標本にする。



写真13 きのこ凍結乾燥標本の耐湿樹脂塗布

凍結乾燥した展示用きのこ標本に耐湿樹脂を塗布し、長期間の展示に耐えられるように加工処理をする。



写真14 ドイツ式標本箱の防虫処理

空いたドイツ式標本箱に防虫処理するため一つずつ開けて防虫剤を封入する。フタに上下があるので要注意。



写真15 展示する鳥類本剥製調べ

月ごとの桜山公園で観られる野鳥について、展示標本のリストを見ながら、しるしを付けて行っている作業。



写真16 鳥類反剥製標本調べ

どのタンスのどの引き出しに、どんな種の鳥類反剥製があるかを調べる。世界的に著名な折居彪二郎採集標本も含む。

自然系ジュニア学芸員の実習活動（3）



写真17 実体顕微鏡での生物観察

研究室にある器具や器機を自らの判断で考え活用して、各バディーごとに実習を進めていく。



写真18 FM ゲンキへの出演

FM ゲンキの「飛び出せ街の元気人」コーナーに出演。講座について、各個人の研究テーマ・得意分野等で科学館をPR。



写真19 科学の屋台村ブース運営（生きもの折り紙）

講座生のみで科学の屋台村にブース出展して、運営を行った。恐竜や生きもの折り紙をレクチャーしているところ。



写真20 科学の屋台村ブース運営（生きもの切り絵）

講座生のみで科学の屋台村にブース出展運営し、昆虫などの切り絵をレクチャーしているところ。盛況であった。



写真21 収蔵室内の大掃除

標本収蔵室では標本を昆虫による食害やカビによる菌害から守る必要がある。そのため常に室内を清潔に保つ。



写真22 実習器具の洗浄・乾燥・格納

実習の後片付け。実習は来館後、講座生自身で準備して、実習後に器具の洗浄、格納。掃除を協力して行う。

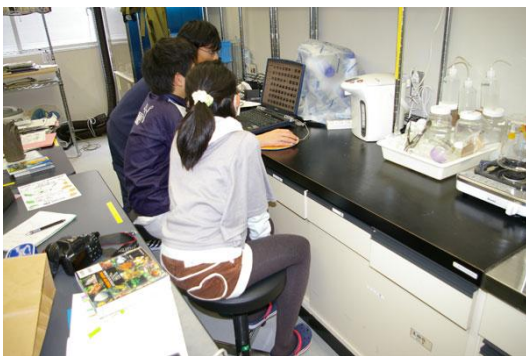


写真23 パソコンを用いたお話し会の準備

自然のお話し会を講座生自身が担当するために、お話し会で使用する画像やその順番などを相談しながら決めていく。



写真24 研究室の後片付け・清掃

実習の最後にお話し会自身が器具等の片付けのほか、研究室の清掃を行って、準備から片付けまで全てを実習として行う。

自然系ジュニア学芸員の実習活動（４）



写真25 淡水ガメ捕獲用仕掛け設置

科学館前のため池に「もんどり」を仕掛けて、淡水ガメの捕獲をした。餌や仕掛ける場所を自分たちで考えた。



写真26 捕獲した淡水カメの測定

捕獲した淡水ガメの甲長や体重などを測定。アカミミガメは噛んで怪我する可能性があるので安全第一で実習した。



写真27 「真冬の淡水ガメ調査報告」のお話会

来館者の皆さんが関心を持って楽しく自然のお話を聞いてもらえるよう、野外調査の格好で淡水ガメのお話をした。



写真28 「へびを触ろう」のお話会

自然のお話会で、講座生が飼育しているコーンスネークを触ってもらう事を入口にしてへびについて解説を行った。



写真29 「スルメイカの解剖」のお話会

自然のお話会で、2倍大のスルメイカ模型と比較しながらスルメイカを解剖し、頭足類の身体の構造について解説。



写真30 「海藻おしばアート」のお話会

自然のお話会で、多様な種類の海藻を用いたアート作品を作成のデモンストレーションをした。海藻についても解説。



写真31 お話会の会場準備と片づけ

お話する担当だけが主役ではなく、自主的にイスを配置したり片づけたりするチームワークが講座の中では重要。



写真32 野鳥本剥製展示解説の入替え

毎月展示替えを行っている桜山公園でみられる野鳥を内側に入って標本の入替えを行う。微調整をお客様目線で相談する。